

## 性格とレクリエーション活動の関係について

— 第一報 大学男子学生のレクリエーション活動の実態と  
性格特性との関係について —

西野 仁\* 今村 義正\*

The Relation between Personality Factors and  
Recreation Activities of Undergraduate Students

JIN NISHINO and YOSHIMASA IMAMURA

During the past quarter of the century, the leisure needs of the Japanese have dramatically increased.

Generally speaking, university or college students have much leisure-time at their disposal, and they often enjoy many kinds of leisure and recreation activities.

Until now, however, in spite of this fact, only few studies on students' leisure and recreation activities have been done. Yet nobody seems to have approached this issue from the point of view of the relationship between personality factors and L & R activities. Hence, I set forth a hypothesis that the student's personality and his L & R activities are in some way correlated, and began to study this problem. The main objection of my study has been to prove the above-stated hypothesis. However, in order to come to any solid conclusion, more time is needed for detailed analyses. Therefore, I have divided the study into the following data categories:

- 1 In what kind of activities are students actually involved ?
- 2 What kind of activities do students want to do ?
- 3 Is there any relationship between the student's personality and his activities, or not ?

If it is so, what kind of personality factors are related to a specific leisure and recreation activity.

The method of this study was mainly based on a Y-G personality test, and on gathering information by questionnaires about L & R activities.

The informants were about 300 male undergraduates at the University of K-gakuen. The period of the study was June, 1979.

These data were computed and analyzed with the UNIVAC 1108 computer and with the program of B. M. D. and AMAS.

The main results of this study are following:

---

\* 東海大学

1 Many students are engaged mainly in the following activities.

listening to music, watching TV, reading book, movie, watching sports, pachinko, TV game, playing the piano and guitar, card game, drive, mahjong, etc.

2 They wish to do following activities.

movie, drive, listening to music, watching sports, skiing and skating, camping, a villa, sailing, etc.

3 Some activities are related to some personality factors. These activities and personality factors are following:

Thinking extraversion ----- participation in some training course

: ----- investigation and study

: ----- playing team game

Lack of cooperativeness --- football

General activity ----- volleyball, basket ball, athletics

Lack of agreeableness ----- gymnastics

Rhathymia ----- watching festival and event, trip, drinking, party

Social Extraversion ----- chattering, telephone

etc.

In the near future, I would like to further develop this study, especially as to the relationship between the personality type and desired leisure and recreation activities.

## I 研究の動機と目的

レジャー・レクリエーションに対する関心が各方面で高まりをみせ、様々な角度からの研究がすすめられている。

中でも、余暇活動に関する研究は、NHKや、余暇開発センターなどから、多くの興味ある結果が報告され、国民の余暇活動の現状把握や、将来予測などが行われている。

しかし、これらの研究結果も、「個人に適した余暇活動は何か」などを具体的にアドバイスしようとする、いわゆる「レクリエーション相談」などに応用するためには、巨視的すぎて、十分ではない。どのような活動が、どのような人々に実際に行われているか、また興味をもたれているか等の具体的なことから、さらに、人の余暇活動は、どのような要因によって影響されているかなどの問題に至るまで、早急にしかも十分検討されねばならない。

斉藤らは、こうした問題について、マクロ的な

視野からの活動予測のために、「余暇時間特性、デモグラフィック特性、社会経済的特性、モビリティ特性、空間的特性、心理的特性<sup>1)</sup>」の6つの要因をあげて余暇活動モデルを構成している。確かに複雑な要因のからみあい、すっきりしたモデルにまとめ、それをもとに予測する方法は、理論的に妥当な方法であるが、それぞれの要因を、何によって数値化するかあるいはパターン化するかが問題となろう。とくに、心理的特性を、個人の活動予測の観点にたつてどのような方法でとらえるかが、大きな課題であると考え。ことに、他の要因が類似した人でも、心理的特性の差により、レクリエーション活動への嗜好が大きく異なることを経験的に観察でき、どのようなとらえ方をするかは大きな関心事と言えよう。

こうした観点にたつて、人の心理的特性を、すでに多方面で、活用されている、Y-Gテストを用いて、「性格特性」としてとらえ、それと、レクリエーション活動に対する興味との関係を、探ろうと考えた。

もちろん、こうした研究が、短期間に結論づけられるとは考えてはならず、その第一歩として、比較的、他の要因が類似していると思われる、大学生を対象に、

1. どのような活動が実際に行われているか
  2. どのような活動を行いたいと思っているか
  3. 実際に行われている活動と興味をもたれている活動との関係
  4. 個人の性格特性と行いたい活動と関係
- の4点について、研究をすすめることとした。

## II 研究の方法

主な研究方法は、学生に対し、Y-Gテスト及び、質問紙による「レクリエーション活動の興味と実態調査」を実施し、集計し、分析した。

### (1) 調査項目

- 矢田部ギルフォード性格検査、通称Y-G性格検査による12項目の性格特性
- 「レクリエーション事典」から抜粋した、80の活動について

条件（時間や費用などのような自分をとりまく諸条件）が整えば、

1. ぜひやってみたい
2. やってみたい
3. どちらともいえない
4. あまりやってみたいとは思わない
5. ぜんぜん、やってみたいとは思わない

実際には、

1. しょっちゅう、やっている
2. 時々、やっている
3. たまにやることはある
4. やったことはあるが、ほとんどおこなっていない
5. 全くやったことがない

の両項目について、解答をもとめた。

### (2) 調査対象

K大学、経済、工学、文学、各部の男子、309名

### (3) 調査日時と場所

1979年7月 K大学教室にて

### (4) 調査方法

集合調査とし、十分な説明ののち実施した。

### (5) 集計方法

東海大学 電子計算機室の UNIVAC 1100/8 を用い、B. M. D. 及び AMAS のプログラムを使い、単純、クロス集計の他、一部、主成分分析及び、因子分析を行った。

## III 結果及び考察

(1) どのような活動が実際に行われているか

表1は、「大学生男子の実際に行っている活動」の単純集計の結果の一部で、上述したそれぞれの尺度ごとの度数を%表示したものである。

また、それぞれの尺度1, 2, 3, 4, 5, の度数に、便宜的に×5, ×4, ×3, ×2, ×1, とし得点化し、平均点を求め指数とした。もちろん、こうした方法は、厳密には、尺度化していないため、平均点を出して指数にすることには問題が残ろうが、おおよその傾向をつかむうえでは問題はないものと判断した。

学生達が、実際に行っている活動は、「音楽を鑑賞すること」「のんびりとテレビをみること」「映画をみること」「読書をする事」「スポーツを観戦すること」「パチンコや、スマートボールなどをする事」「ソフトボールや、野球などをする事」などが、高順位となっている。

逆に、「刺しゅうや編みものをする」「謡、清元、尺八などのけいこをする事」「お茶やいけ花をしたり、ならったりする」「歌舞きや、能、狂言などをみる」「乗馬を行うこと」「グライダーやスカイダイビングをする事」「カヌーやサーフィンをする事」などは、あまり行われていない。これは、調査対象者が、男子学生であることや、その活動がお金がかかるか否かなどと関係がありそうである。

図1は、この「実際には」の場合の主成分分析の結果である。

軸の解釈であるが、第I軸は、手軽にできるかどうかという「手軽さ」をあらわす軸と解釈できよう。なお、この第I軸の寄与率は、23%であった。また第II軸は、解釈が難しく、適当なものを見つけることができなかった。

この主成分分析の結果を、単純集計における指数との関係でみると、手軽な活動が上位を占めて

表 1 大学生男子の実際に行っている活動

順位	活動内容	1	2	3	4	5	指数
		しょっちゅうやっている	時々やっている	たまにやることはある	やったことはあるが、ほとんど行っていない	全くやったことがない	
1	音楽を鑑賞すること	38.0 %	22.9 %	24.5 %	9.8 %	4.9 %	3.8
2	のんびりテレビをみること	31.3	23.5	29.0	9.4	6.8	3.6
3	読書をする事	14.4	29.1	33.0	15.7	7.8	3.3
4	映画をみる事	12.4	31.0	39.9	10.1	6.5	3.3
5	スポーツを観戦すること	17.2	23.1	28.6	18.5	12.7	3.1
6	パチンコやスマートボールをすること	17.5	19.5	27.3	22.4	13.3	3.1
7	ソフトボールや野球をすること	13.7	22.1	35.2	21.5	7.5	3.1
8	( 中 略 )						
74	カヌーやサーフィンをすること	1.3	2.0	5.2	11.4	80.1	1.3
75	グライダーやスカイダイビングをすること	1.6	0.7	2.6	7.2	87.8	1.2
76	乗馬を行うこと	0.3	0	4.2	13.1	82.4	1.2
77	歌舞きや能、狂言をみる事	0	1.0	2.0	14.8	82.2	1.2
78	お茶やいけ花をしたり、なったりすること	1.3	0	1.6	3.9	93.1	1.1
79	謡、清元や尺八などのけいこをすること	0	1.0	2.0	6.6	90.5	1.1
80	刺しゅうや編みものをすること	0	0.3	1.0	11.2	87.5	1.1

指数は、

「1. しょっちゅうやっている」×5、「2. 時々やっている」×4、「3. たまにやることはある」×3、「4. やったことはあるが、ほとんど行っていない」×2、「5. 全くやったことがない」×1として、その総和を求め、Nで除して求めた。

いる傾向にあり、学生達が実際に行っている活動は、その活動が手軽に行える活動かどうかということと大きくかかわりがあるといえよう。

(2) 条件が整えば、行いたい活動

表2は、大学生男子の条件が整えば行いたい活動について、表1同様の方法で集計、算出したものである。

このように、条件が整えば行いたい活動は、「映

画をみる事」「ドライブをすること」「音楽を鑑賞すること」「スポーツを観戦すること」「アイススケートやスキーをすること」「キャンプをすること」「別荘生活を行うこと」などが高くなっており、逆に当然のことながら、男子には縁のない、「刺しゅうや編み物をしたり、ペーパーフラワーをつくること」やまた「謡、清元や尺八、琴などのけいこをすること」「歌舞きや、能、狂言をみ

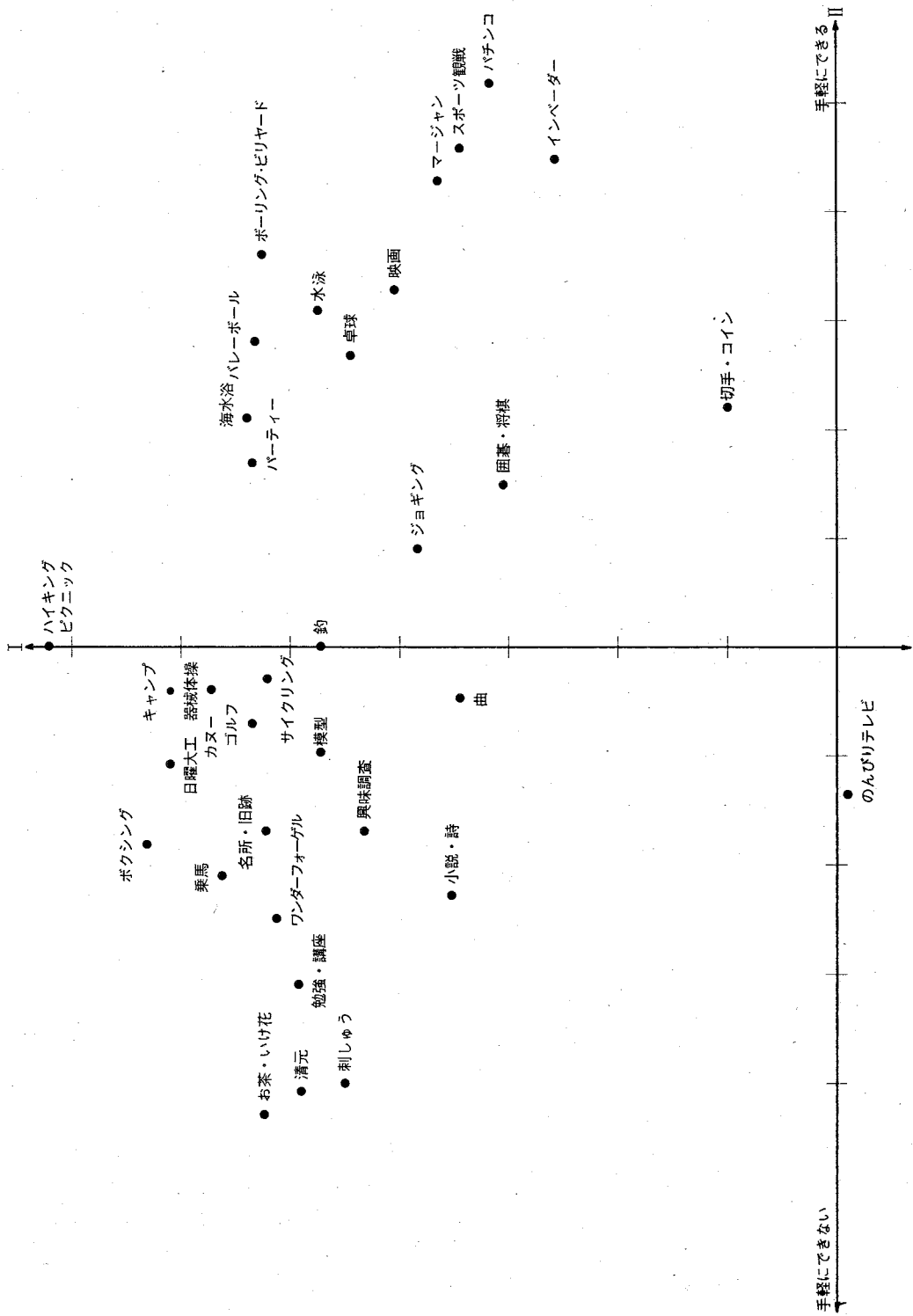


図 1 「実際には」の場合の主成分分析

表 2 大学生男子の条件が整えば行いたい活動

順位	活動内容	1	2	3	4	5	指数
		ぜひやってみたい	やってみたい	どちらともいえない	あまりやってみたいとは思わない	ぜんぜんやってみたいとは思わない	
1	映画をみること	60.7 %	27.5 %	8.2 %	1.0 %	2.6 %	4.4
2	ドライブをすること	62.7	23.2	8.2	2.6	3.3	4.4
3	音楽を鑑賞すること	55.9	28.6	11.4	1.6	2.4	4.3
4	スポーツを観戦すること	54.8	26.2	9.8	3.3	5.9	4.2
5	スケートやスキーをすること	50.2	28.1	11.6	5.0	5.3	4.1
6	キャンプをすること	47.2	29.7	14.5	2.6	5.9	4.1
7	別荘生活を行うこと	56.9	19.1	9.2	5.3	9.5	4.1
8	( 中 略 )						
74	ボクシング、レスリング、フェンシングをすること	11.8	11.8	22.9	16.3	37.3	2.4
75	園芸や庭いじりをすること	5.9	12.4	23.1	23.8	34.9	2.3
76	劇を演じたり、人形劇をあやつること	6.5	9.4	18.8	20.8	44.5	2.1
77	歌舞きや能、狂言をみること	4.9	9.2	14.4	17.6	53.9	1.9
78	謡、清元や尺八などのけいこをすること	3.6	7.2	7.8	18.3	63.1	1.7
79	お茶やいけ花をしたり、ならったりすること	2.0	3.3	8.2	16.4	70.2	1.5
80	刺しゅうや編みものをすること	1.3	1.6	8.2	17.7	71.1	1.4

指数は、

「1. ぜひやってみたい」× 5、「2. やってみたい」× 4、「3. どちらともいえない」× 3、「4. あまりやってみたいとは思わない」× 2、「5. ぜんぜんやってみたいとは思わない」× 1、として、その総和を求めて、Nで除して求めた。

ること」「劇を演じたり、人形劇をあやつるなどをすること」「園芸や庭いじりをすること」「ボクシング、レスリング、フェンシングをすること」などが低くなっている。

こうした傾向は、実際の活動同様、大学生、男子、という調査対象のもつ特徴を反映していると言える。

これらの「条件が整えば」の場合の因子分析に

よる結果は、図2のようであった。

第Ⅰ軸は、その活動のもつ「静的か、動的か」という「活動の動き」の因子と解釈できようし、第Ⅱ軸は、「簡単かつ、入りやすいか、なかなか入りにくい」が、ひとたび、それを行いだすと、楽しみが深い」という「活動のもつ、入りやすさと、楽しさの程度」をあらわす因子と解釈できよう。なお、第Ⅱ軸までの累積寄与率は、30.9%であった。

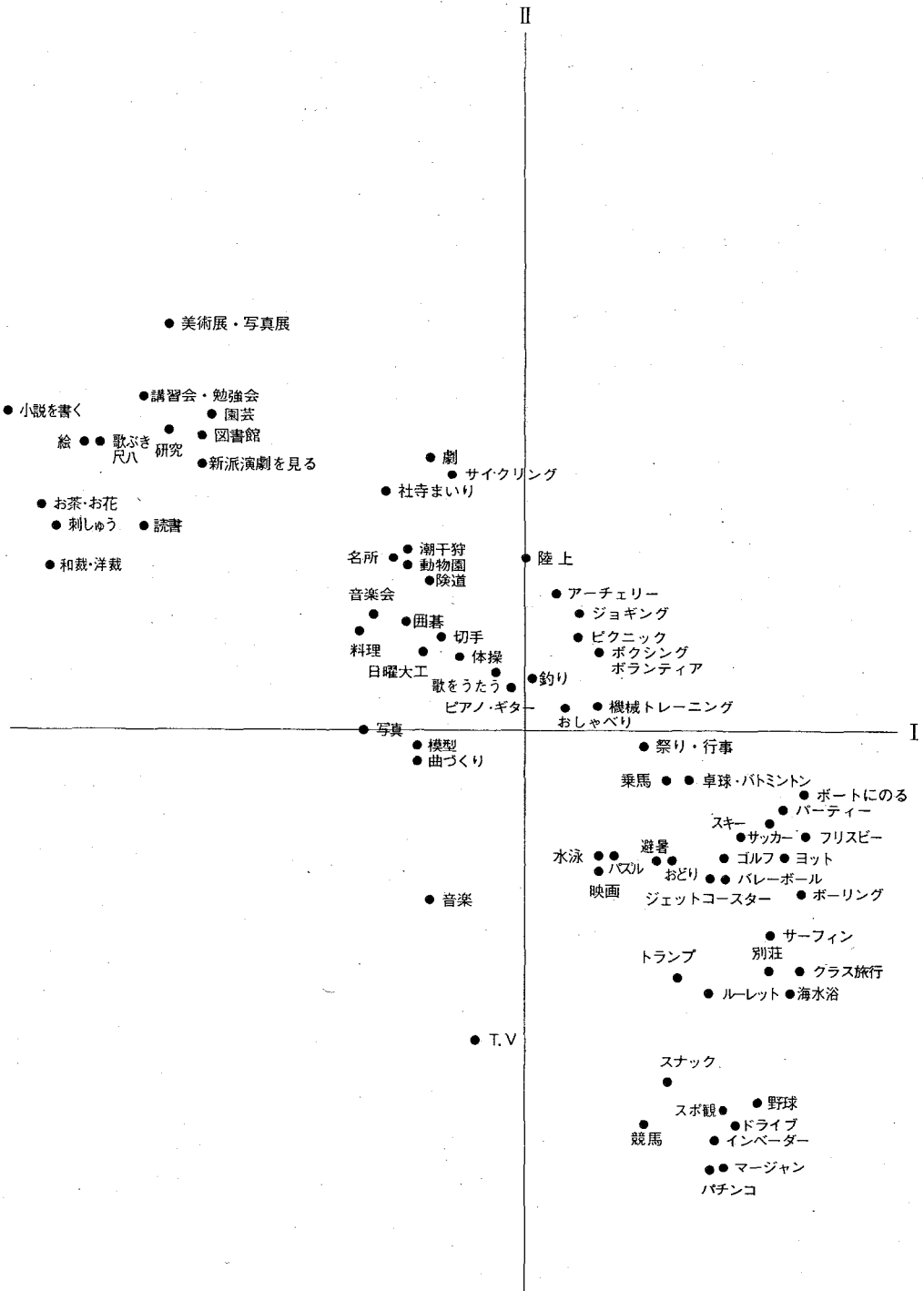


図 2 「条件が整えば」の場合の因子分析

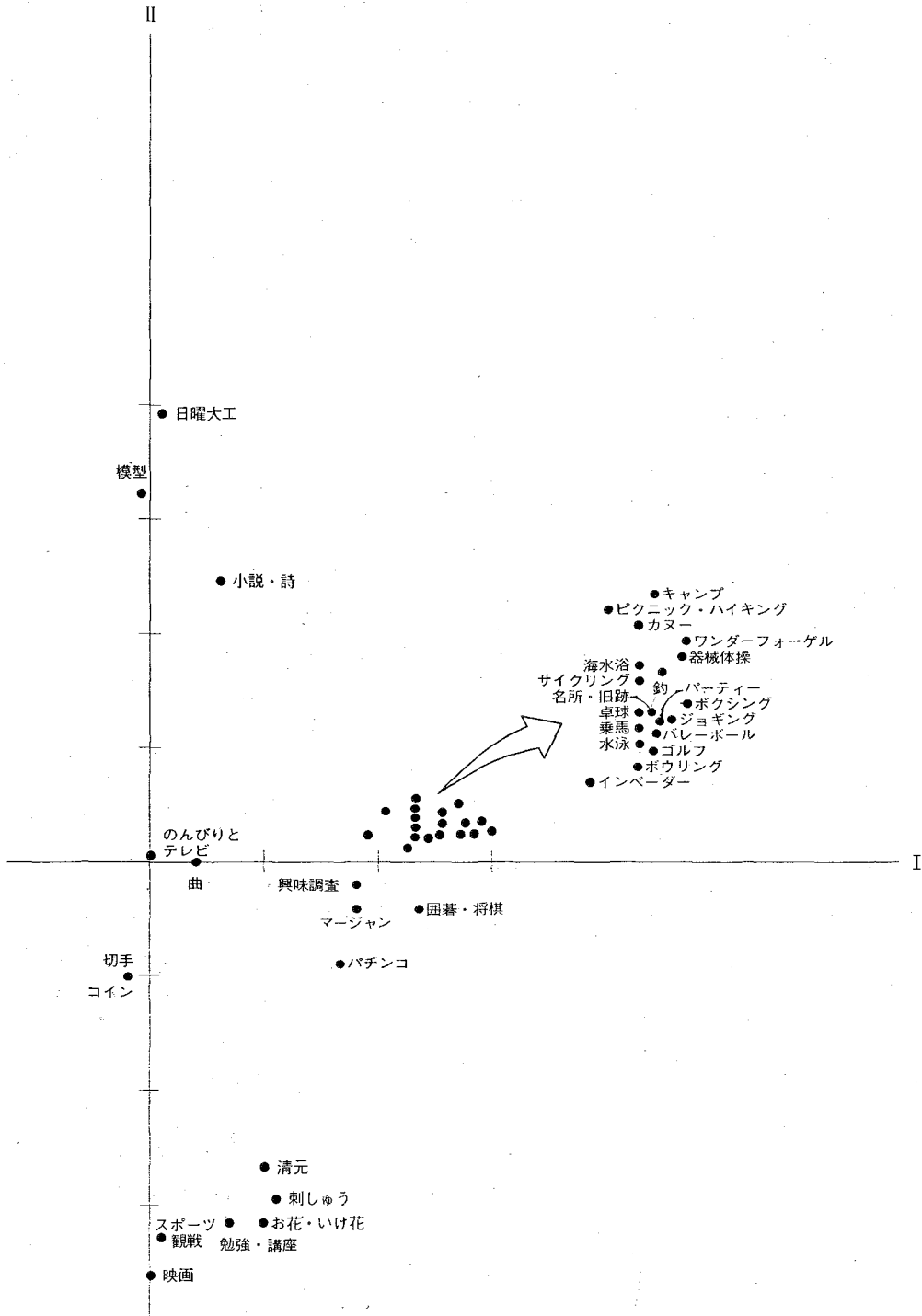


図 3 「条件が整えば」の場合の主成分分析



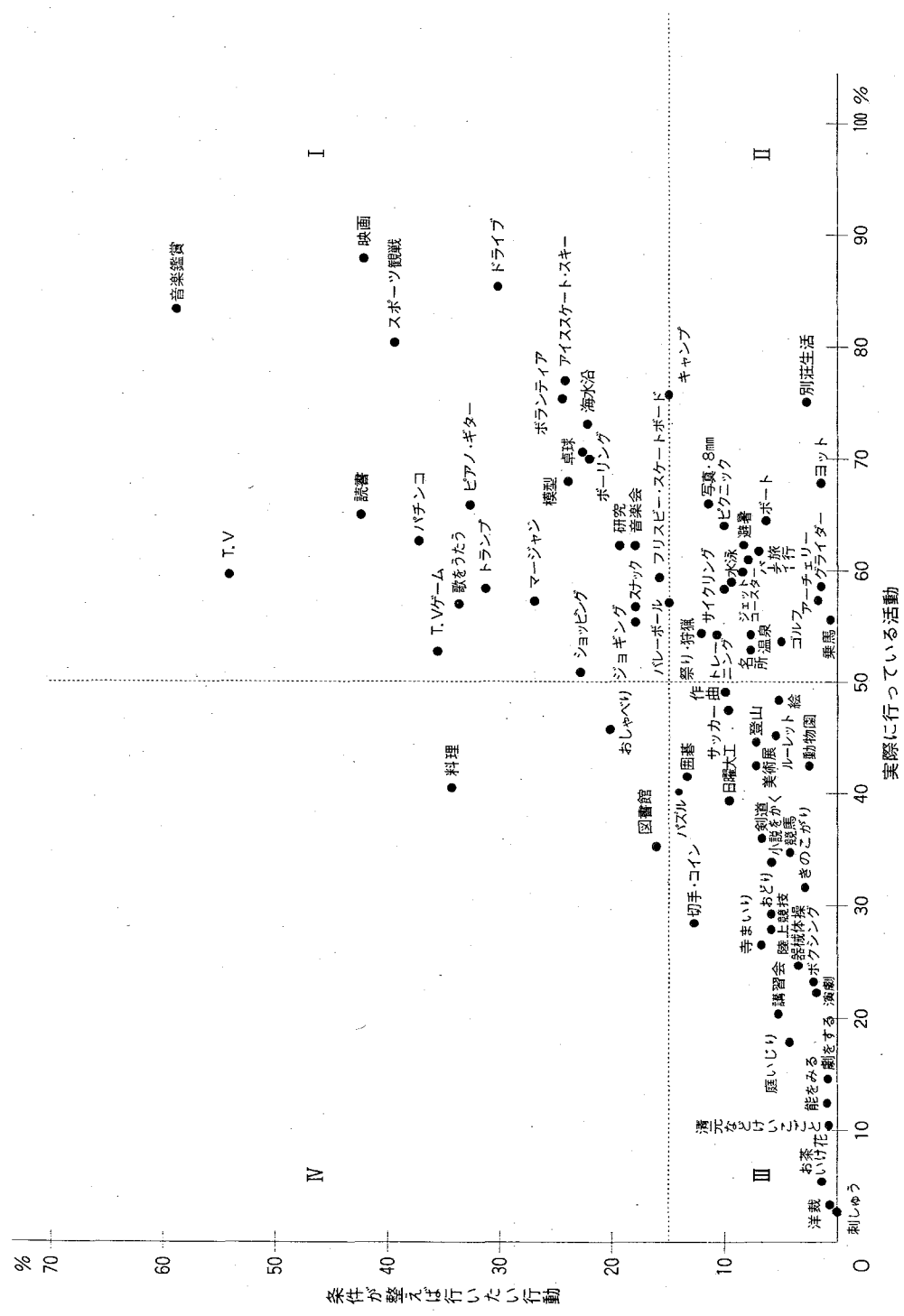


図 4 「実際に行っている活動」と「条件があれば行きたい活動」

また、主成分分析の結果は、図3のようであった。この第Ⅰ軸は、「静的か、動的か」、第Ⅱ軸は、「能動的な活動か、受動的な活動か」をあらわすものと解釈できよう。なお、第Ⅱ軸までの累積寄与率は64%であった。

この結果を単純集計の結果との関係でみると、「実際に行っている活動」における、主成分分析の結果と順位との関係のような、ある一定の関係は認められず、「条件が整えば行いたい活動」は、それを選ぶ要因が多様であるといえよう。

### (3) 「実際に行っている活動」と、「条件が整えば行いたい活動」との関係

図4は、「実際に行っている活動」と、「条件が整えば行いたい活動」との関係をあらわしている。たて軸に、「実際に行っている活動」について、1. しょっちゅう行っている。と、2. 時々やっている。と、答えた者の合計を百分率であらわし、よこ軸に、「条件が整えば行いたい活動」について、1. ぜひやってみたい。2. やってみたい。と答えた者の人数の合計を百分率であらわしたものである。

また、図中の……線は、それぞれの度数の平均値である。この……線によって、大きく4つのカテゴリーに分類できる。Ⅰは、「行いたく、かつ実際に行っている活動」であり、Ⅱは、「行いたいと考えられているが、実際には、あまり行われていない活動」Ⅲは、「行いたくなく、かつ行われていない活動」Ⅳは、「行いたくはないが、行われている活動」である。

Ⅰには、「映画をみること」「音楽を鑑賞すること」「ドライブをすること」「パチンコやスマートボールなどをすること」「読書をすること」などがあげられ、Ⅱには、「ヨットやモーターボートなどをすること」「グライダーやスカイダイビングをすること」「アーチェリーや弓をすること」「乗馬を行うこと」などがあげられている。また、Ⅲには、「歌舞きや、能、狂言をみること」「勉強会に参加したり、講習会を受けたりすること」「器械体操など体操競技をすること」などがあげられており、Ⅳには、「料理をつくること」や、「図書館に行くこと」などがあげられている。確かに、下宿生にとっては、「料理」は行わざるを得ない活

動ととらえられていようし、「図書館に行くこと」も、やはり大学生として、行わざるを得ない活動なのであろう。

また、ⅠからⅣまでの、それぞれのカテゴリーに属する活動は、Ⅰが、31%、Ⅱが、28%、Ⅲが37%、Ⅳが、4%であり、「行いたい、行えない活動」より、「行いたく、行っている活動」がわずかではあるが、多かった。

### (4) 性格特性と、「条件が整えば、行ってみたい活動」との関係

表3は、Y-G性格検査における12の性格特性と、「条件が整えば、行ってみたい活動」とのクロス集計における、 $\chi^2$ 値が、とくに高い値を示した、組み合わせの一覧である。

この $\chi^2$ 値が、39.3以上と高い値を示した組み合わせは、次のようなものである。

- Co 協調性がないこと (Lack of Cooperativeness) と、「サッカーやラグビーをすること」
- Ag 愛想の悪いこと (Lack of Agreeableness) と、「器械体操など体操競技をすること」
- G 一般的活動性 (General Activity) と、「バレーボールやバスケットボールをすること」「陸上競技をすること」
- R のんきさ (Rhythymia) と、「祭や行事などの見物」「クラス旅行や社員旅行をすること」「パーティーや、会食などに参加すること」「スナックやバーなどで飲むこと」「ショッピングをすること」「おしゃべりをしたり、電話をかけたり、手紙を書くこと」
- T 思考的外向 (Thinking Extraversion) と、「何か興味あることを調べたり、研究したりすること」「勉強会に参加したり、講習会を受けたりすること」「乗馬をすること」
- A 支配性 (Ascendance) と、「バレーボールや、バスケットボールをすること」「おしゃべりをしたり、電話をかけたり、手紙を書くこと」
- S 社会的外向 (Social Extraversion) と、「海水浴をすること」「おしゃべりをしたり、電話をかけたり、手紙を書くこと」

これらの組み合わせのいくつかについて、クロス集計表によって検討してみよう。

表 3 条件があえば行いたい活動と性格特性との関係 ( $\chi^2$  値)

活 動 内 容	D. 抑うつ性	C. 回帰性傾向	O. 客観的でないこと	Co. 協調的でないこと	Ag. 愛想の悪いこと	G. 一般的活動性	R. のんきさ	T. 思考的外向	A. 支配性	S. 社会的外向
小説や詩を書いたり、和歌をつくること								○		
曲をつくること									○	
何か興味あることを調べたり、研究したりすること								◎		
勉強会に参加したり、講習会を受けたりすること								◎		
新派や演劇をみること								◎		
美術展や写真展などの催しものをみること								◎		
歌をうたうこと							○			
トランプや花ふだなどをする事							○			
マージャンをすること						○				
アーチェリーや弓を射ること		○								
フリスビーやスケートボード、ローラースケートをすること						○				
ゴルフをすること						○				
サッカーやラグビーをすること				◎			○			
バレーボールやバスケットボールをすること	○					◎			◎	○
ソフトボールや野球などをする事						○	○			○
陸上競技をすること						◎				
器械体操など、体操競技をすること					◎	○				
ヨットやモーターボートなどをする事							○			
カヌーやサーフィンなどをする事							○			○
ボクシングやレスリング、フェンシングをすること		○								
釣や狩猟などを行うこと						○				
海水浴をすること	○						○		○	◎
祭りや行事などの見物をする事							◎			
クラス旅行や社員旅行をすること						○	◎			
乗馬を行うこと								◎		
ボートにのること		◎					○			
おどりを踊ること			○				○			
パーティーや会食などに参加すること							◎			
スナックやバーなどで飲むこと							◎			
ショッピングをすること				○			◎			
おしゃべりしたり、電話をかけたり、手紙を書くこと							◎		◎	◎

(注) ◎は、 $\chi^2$ 値 39.3以上、○は 32.0以上をあらわす。

なお、この性格特性をあらわす尺度は、Y-G性格検査における、五段階評価とし、数値の高い者ほど、その性格特性を示す傾向にあり、また活動においては、低い者ほど、その行動を行いたがっていることをあらわしている。

また、下側の+-であらわした表は、上側の、それぞれのマスの度数と、そのマスの期待度数との差をあらわしたものであり、+は、実際の度数が期待度数より多い場合で、-は少ない場合、±は、ほぼ、期待度数と同じ場合である。

- Ag 愛想の悪いこと——「器械体操など体操競技をすること」(表4〔4-1〕)「愛想の悪いこと」は、『気が短い、正しいと思うことは人にかまわず実行する、人の意見をききたがらないなど攻撃的な性質』をあらわす。

こうした傾向の強い者は、この活動を好み、逆に、弱い者は、好まない傾向にある。

- G 一般的活動性——「バレーボールや、バスケットボールをすること」(表4〔4-2〕)「一般的活動性」は、『仕事が早い、動作がきびきびしているなどの肉体型精神面の両方にまたがる活動的な性格』である。

こうした傾向の強い者は、この活動を好み逆に弱い者は、好まない傾向にある。

- R のんきさ——「クラス旅行や、社員旅行をすること」(表4〔4-3〕)「のんきさ」は、『人といっしょにはしゃぐ、何時も何か刺激を求めるなどの気軽な衝動的な性質』である。

「のんきさ」の高い者ほど、「クラス旅行や社員旅行」を好み、逆に、低い者は、そうした活動を欲しない傾向にある。

- T 思考的外向——「勉強会に参加したり、講習会を受けたりすること」(表4〔4-4〕)「思考的外向」とは、『考えが、大ざっぱで、のんきなたち』のことであり、この尺度の逆方向の、「思考的内向」とは、『深く物事を考える』傾向がある。

この傾向の弱い者ほど、「勉強会や、講習会」を行いたいと考えており、逆に、強い者ほど、行いたいとは考えていない。

- S 社会的外向——「海水浴をすること」(表

4〔4-5〕)「社会的外向」とは、『社会的、対人的接触を好む性質』である。(以上の性格特性の説明は、辻岡著、新性格検査法、竹井機器工業(株)発行による)。

この傾向の強い者ほど、「海水浴」を行いたいと考えており、逆に、弱い者は、行いたいと考えていない。

このように、いくつかの活動については、性格特性と関係があると考えられるが、特別な関係を見い出せない活動もある。

全体として、「のんきさ」は、「マージャンをすること」「パズルやトランプ占いをすること」「歌をうたうこと」や、「祭や行事などの見物をする事」「クラス旅行や社員旅行をすること」「ソフトボールや野球などをすること」「ヨットやモーターボートなどをすること」「カヌーやサーフィンなどをすること」「ボートにのること」「パーティーや会食などに参加すること」「スナックやバーなどで飲むこと」「ショッピングをすること」「おしゃべりをしたり、電話をかけたり、手紙を書くこと」などと、関係が認められる。

また、「思考的外向」とは、「何か興味あることを調べたり研究したりすること」や、「勉強会に参加したり、講習会を受けたりすること」「新派や演劇をみること」「美術展や写真展などの催しものを見ること」などと関係がありそうだ。

さらに、「一般的活動性」は、「スポーツ」との関係が認められるといえよう。

これらのことを、前述の、「条件を整えば」の場合の主成分分析において明らかとなった、二つの軸、つまりその活動が、「静的か、動的か」と、「能動的か受動的か」との関係において考えてみよう。

前者の、「静的か、動的か」という軸は、いくつかの活動との関係のある、「一般的活動性」と、「社会的外向」とのかかわりが、また、「能動的か、受動的か」の軸は、「のんきさ」と、「思考的外向」とのかかわりをもっていると推測できないだろうか。

しかし、本研究においては、この点に関しては、十分な分析が行われていないために、新たな、仮説としてその実証に向けて、多変量解析などの手

法を用いてアプローチを試みたい。

表 4 条件が整えば行いたい活動と性格とのクロス表

[4-1] 弱い ← 愛想の悪いこと → 強い

器械体操など体操競技をすること

活動	性格					合計
	1	2	3	4	5	
1. ぜひやってみたい	1	0	10	15	4	30
2. やってみたい	1	2	22	16	4	45
3. どちらとも言えない	5	14	25	10	8	62
4. あまりやってみたいとは思わない	6	18	23	15	0	62
5. ぜんぜんやってみたいとは思わない	8	28	38	24	11	109
合計	21	62	118	80	27	308

$\chi^2$ 値 39.5 df 16 単位：人

実際の度数と期待度数との比較

活動	性格				
	1	2	3	4	5
1	-	-	±	+	+
2	-	-	+	+	±
3	±	±	±	-	+
4	+	+	+	-	-
5	+	-	+	-	+

+ … 実際の度数 > 期待度数

± … 実際の度数 = 期待度数

- … 実際の度数 < 期待度数

[4-2] 弱い ← 一般的活動性 → 強い

バレーボールやバスケットボールをすること

活動	性格					合計
	1	2	3	4	5	
1. ぜひやってみたい	1	15	31	35	4	86
2. やってみたい	1	32	29	22	4	88
3. どちらとも言えない	2	25	35	15	1	78
4. あまりやってみたいとは思わない	0	6	12	2	3	23
5. ぜんぜんやってみたいとは思わない	3	6	13	5	0	27
合計	7	8	120	79	12	302

$\chi^2$ 値 39.4 df 16 単位：人

活動	性格				
	1	2	3	4	5
1	-	-	-	+	+
2	-	+	-	±	+
3	+	+	+	-	+
4	±	+	+	-	-
5	+	-	+	-	-

〔4-3〕 弱い ← のんきさ → 強い

クラス旅行や社員旅行をすること

活動	性格	1	2	3	4	5	合計
1. ぜひやってみたい		1	10	27	53	25	116
2. やってみたい		1	5	35	21	13	75
3. どちらとも言えない		6	7	21	23	9	66
4. あまりやってみたいとは思わない		0	7	10	2	3	22
5. ぜんぜんやってみたいとは思わない		3	7	10	6	2	28
合計		11	36	103	105	52	307

$\chi^2$ 値 51.1 df 16 単位:人

性格	活動	1	2	3	4	5
	1	-	-	-	+	+
	2	-	-	+	-	±
	3	+	±	±	±	±
	4	±	+	+	-	-
	5	+	+	±	-	-

〔4-4〕 弱い ← 思考的外向 → 強い

勉強会に参加したり講習会を受けたりすること

活動	性格	1	2	3	4	5	合計
1. ぜひやってみたい		2	7	9	2	0	20
2. やってみたい		2	12	13	10	3	40
3. どちらとも言えない		0	18	28	27	13	86
4. あまりやってみたいとは思わない		0	9	33	17	9	68
5. ぜんぜんやってみたいとは思わない		0	5	33	31	17	86
合計		4	51	116	87	42	300

$\chi^2$ 値 47.9 df 16 単位:人

性格	活動	1	2	3	4	5
	1	+	+	+	-	-
	2	+	+	-	-	-
	3	-	+	-	+	±
	4	-	-	+	-	±
	5	-	-	±	+	+

〔4-5〕 弱い ← 社会的外向 → 強い

海水浴をすること

活動	性格	1	2	3	4	5	合計
1. ぜひやってみたい		2	7	51	59	19	138
2. やってみたい		0	15	33	28	9	85
3. どちらとも言えない		1	10	18	18	2	49
4. あまりやってみたいとは思わない		0	2	2	5	2	11
5. ぜんぜんやってみたいとは思わない		3	7	6	2	2	20
合計		6	41	110	112	34	303

性格	活動	1	2	3	4	5
	1	-	-	±	-	+
	2	-	+	+	+	+
	3	±	+	±	±	-
	4	-	+	-	±	±
	5	+	+	-	-	+

#### IV 結論とまとめ

本研究において、次のようなことが明らかになった。

1. 大学生は、そのレクリエーション活動において、「手軽な活動」が、より多く行われている傾向が認められる。

2. また、「条件が整えば」様々な活動を行いたいと考えており、それは、「静的な活動か、動的な活動か」ということと、「能動的な活動か、受動的な活動か」ということの、2つの因子が、関係していると考えられる。

3. 「条件が整えば行いたい活動」と、「実際に行っている活動」を、その組み合わせによって4つに分類すると、「行いたくて、行っている活動」が、「行いたいが、行っていない活動」より、わずかに多かった。「行いたいが、行っていない活動」は、それを実施するために、多額の費用がかかるなど手軽に行えない活動が、大半を占めている。

4. 性格特性と、「条件が整えば行いたい活動」とは、「一般的活動性」「社会的外向」や、「のんきさ」「思考的外向」などが、いくつかの行動と、とくに関係が認められる。なお、前者2つは、前述の、「条件が整えば行いたい活動」において認

められる。「静的な活動か、動的な活動か」と、後者2つは、「能動的な活動か、受動的な活動か」と、関係が深いのではないかと考えられる。

これらの研究を通して、性格特性と、「条件が整えば行いたい活動」とは、何らの関係があるものと考えられる。

しかし、どのような特性が、どのような活動と関係があるかについては、さらに、より詳細な調査研究と、より複雑な分析が必要である。また、人間の性格特性からみた性格タイプと活動についても、何らかのアプローチを試みたいと考えている。さらに対象を、大学生の男子のみでなく、大学生の女子、一般の人達、子供などへと拡げて行きたいと考えている。

(この研究は、日本レクリエーション学会からの研究助成金によって実施したものである。この場をお借りして、会員のみなさまに、謝意を表したい。)

#### 参 考 文 献

- 1) 「日本の余暇マーケット」P78 齊藤精一郎他.  
日本経済新聞社.
- レクリエーション事典 日本レクリエーション協会編 不昧堂.
- 新性格検査法 辻岡著 竹井機器工業.